

病害虫発生速報

令和6年7月31日
第6号

対象作物：トマト、ミニトマト

発信元 山形県病害虫防除所
TEL 023-644-4241(内陸)
0235-78-3115(庄内)

**題名：ミニトマトでトマトキバガによる食害を確認！
圃場をよく見回り、食害が見られたら早期防除を。**

1 発生概況

- (1) 本県では、令和5年にトマトキバガのフェロモントラップによる侵入調査で誘殺が確認されたが、これまで農作物への被害は確認されていなかった。
- (2) 令和6年は園芸農業研究所（寒河江市）に設置したトマトキバガのフェロモントラップにおいて、6月5半旬から誘殺が見られている。
- (3) 令和6年7月上旬にハウスミニトマトで、本種の食害と疑われる葉が確認され、葉内部には幼虫が確認された（図1、4）。果実の食害は確認されていない。

2 被害の様子

- (1) 茎葉では、内部に幼虫が潜り込んで食害し、孔道が形成される。食害部分は表皮のみを残して薄皮状になり白変する（図1）。食害部を観察すると虫糞が1か所に集積し（図2）、葉内部に幼虫が確認できる場合もある（図4）。成虫は体長5～7mmと小さい（図5）。
- (2) 本種の食害痕は「面的」となる（図1）。ハモグリバエ類の食害痕は類似するが、「線状」であり、本種のものとは異なる（図3）。
- (3) 果実では、幼虫がせん孔侵入して内部組織を食害するため、果実品質が著しく低下する（図6）。
- (4) 他県では、トマト苗の生長点が食害される被害が確認されているので、育苗期間中も注意する。
- (5) トマトキバガの形態と生態の特徴は「令和5年9月27日付農作物有害動植物発生予察情報特殊報第1号」を参照。



図1 葉の食害痕



図2 虫糞の集積



図3 ハモグリバエ類による食害痕（参考）



図4 葉内の幼虫



図5 羽化した成虫



図6 トマト果実の食害痕（飼育個体）
（原図：農林水産省横浜植物防疫所）

3 防除対策

- (1) 圃場をよく見回り、見つけ次第捕殺する。
- (2) トマトキバガの食害が疑われる場合は、病害虫防除所または最寄りの農業技術普及課に連絡する。
- (3) トマト、ミニトマトの施設栽培では、ハウス入り口や開口部に防虫ネットを設置し、本種の施設内への侵入を防ぐ。
- (4) 食害された葉や果実は圃場内に放置せず、ビニール袋などに入れて一定期間密閉し、寄生した成幼虫を全て死滅させてから適切に処分する。
- (5) 本種は繁殖力が高いので、発生を拡大させないため、トマトキバガに適用のある農薬を散布する（表1）。なお、抵抗性害虫出現防止のため連用を避け、作用性の異なる薬剤で輪用散布する。

表1 トマトキバガに適用のある薬剤*（令和6年7月25日現在）

トマト					
薬剤名	IRACコード	使用方法	使用量・希釈倍数	使用時期	使用回数
アファーム乳剤	6	散布	2,000倍	収穫前日まで	5回以内
グレーシア乳剤	30		2,000倍		2回以内
コテツフロアブル（劇）	13		2,000倍		3回以内
ダブルシューターSE	5,-		1,000倍		2回以内
トルネードエースDF	22A		2,000倍		2回以内
フェニックス顆粒水和剤	28		2,000倍		2回以内
ベリマークSC	28	灌注	25ml/400株	育苗期後半～定植当日	1回
ミニトマト					
薬剤名	IRACコード	使用方法	使用量・希釈倍数	使用時期	使用回数
アファーム乳剤	6	散布	2,000倍	収穫前日まで	5回以内
コテツフロアブル（劇）	13		2,000倍		3回以内
フェニックス顆粒水和剤	28		2,000倍		2回以内
ベリマークSC	28	灌注	25ml/400株	育苗期後半～定植当日	1回

*令和6年版山形県病害虫防除基準掲載薬剤でトマトキバガに適用がある農薬

農薬の使用に当たっては、農薬使用基準（適用作物、収穫前使用日数、使用回数等）を遵守するとともに、隣接地や周辺作物へ飛散しないよう十分留意し、農薬の使用後は防除日誌の記帳を行う。